

令和4年度

同窓会総会報告

2022年度も総会は書面開催、講演会はオンラインでの開催となりました。前年度と同様、会報第25号に総会資料を掲載し、会員から議決権行使書を返送いただく方法で総会を開催しました。令和3年度収支決算、役員の変動、令和4年度予算を付議し、書面審議の結果、すべての議案が承認されました。

講演会は、2022年10月15日(土)午後2時からオンラインで行われました。関口倫紀教授の司会により、相山泰生名誉教授・相山女学園理事長が、「オープンイノベーション新時代―ベンチャー側の「知恵」の重要性」と題して講演されました。オープンイノベーションが2010年頃から、それまでの、事業会社が大学・研究機関と一緒に進むものから、事業会社がスタートアップと一緒に進むものへ変わってきたことを指して「新時代」と呼ぶと前置きされ、オープ

ンイノベーションを大企業目線から見た場合の視点として、既存企業からの組織的分離、不確実性への対処、先端知識へのアンテナ、エコシステムというのが挙げられるだろうと述べられた上で、本題である、起業家の目線からオープンイノベーションを見た場合の論点について詳しく論じられました。

第1の論点は、大企業とスタートアップとが交わることで双方に生じる違和感ということで、スタートアップから見たら、大企業の組織的慣行や走りながら考えることができないスピード感のなさや、手段の目的化といった点があるのに対して、大



相山名誉教授のご講演

業側から見ると、プロセスの必要性や品質基準の厳格さや内部統制・法務の重要さを理解しないという点があると述べられました。

第2の論点は、起業家の数は多いので大企業がスタートアップを選んでいるという面はあるが、選ばれているスタートアップはむしろ貴重なので、起業家が企業を選んでいるという事実を見なければならぬということでした。そして起業家がどうやって大企業を選んでいるかを調べてみると、その選択の基準が、補完性、自尊心、特質類似性にまとめられるという調査結果を示されました。

第3の論点は、起業家から見て大企業はサメのようなもので、サメに食われる被害を防ぐための防護のメカニズムは何かということでした。被害としては不平等や技術を盗まれることがありますが、それらを防ぐための7つの知恵があるという調査結果を示されました。7つの知恵とは、(1)情報開示方針のルール化、(2)資本関係による逆ガバナンス・資本を入れてもらうことによって利害を一致させる、(3)社会関係によるガバナンス・著名なメンターや弁護士の利用、(4)競争状態のコントロール・複数の相手、相手と競合しない領域を選ぶ、(5)情報の非対称性の解消、(6)アイデアの実行力の差を見せること、

事業化のスピードではスタートアップが勝つということ、(7)組み方の選択・共同開発はしないとかより相互依存の高い相手を選ぶとかです。調査結果からの回答をいくつか例示することによって、これらを具体的に理解できるように話してくださいました。この7つのうちの4つを見出したところに研究の独自性があり、これは「ソフトな回避メカニズム」と名づけることができると示唆されました。

オンラインでしたが、2、3の質問が出され、それに丁寧に回答されました。

書面での総会の後、新役員の追加選出の必要があったので、講演会後の午後3時10分から、オンラインで臨時総会が行われました。相京会長、依田理事長の挨拶に続いて、若井敬氏(昭和58年卒・近畿支部)の新役員追加が承認され、植田和保氏(昭和51年卒・近畿支部)の退任が報告されました。

2023年度は、対面で総会が開催できるよう準備を進めています。

岡敏弘(前同窓会学内企画委員長)